

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-097113
(43)Date of publication of application : 02.04.2002

(51)Int.Cl. A61K 7/00
A61K 7/48

(21)Application number : 2000-287846 (71)Applicant : JAPAN NATURAL LABORATORY CO LTD
(22)Date of filing : 22.09.2000 (72)Inventor : MITSUI YUKIO
IMADA KATSUMI

(54) PACK MATERIAL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pack material capable of bringing about a good effect on every human skin without causing rash or itching while considering formulation amount of the components which are safe to human bodies, and particularly provide the pack material suppressing tyrosinase (as a result, increasing bleaching action), promoting discharge of melanin pigment, activating respiration of a cell, increasing water contents in keratin of the skin and promoting blood circulation.

SOLUTION: This pack material is characterized by mixing placental extracts with a water-soluble polymer and/or an antiphlogistic agent, heating the resultant solution, mixing the heated solution with a pack base and cooling the mixture and carrying out defoaming treatment of the mixture. In the pack material, the above placental extracts are preferably formulated in an amount of 5% to 60%.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-97113

(P2002-97113A)

(43)公開日 平成14年4月2日(2002.4.2)

(51)Int.Cl.⁷
A 61 K 7/00

識別記号

F I
A 61 K 7/00

テ-マコ-ト(参考)
U 4 C 0 8 3
A
C
G
J

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-287846(P2000-287846)

(22)出願日 平成12年9月22日(2000.9.22)

(71)出願人 500279357
株式会社日本天然物研究所
埼玉県所沢市喜多町5-14
(72)発明者 三井 幸雄
埼玉県所沢市喜多町5番14号
(72)発明者 今田 勝美
千葉県船橋市大穴北2丁目2番5号
(74)代理人 100079094
弁理士 山崎 輝緒
Fターム(参考) 4C083 AA111 AA112 AB052 AC101
AC102 AC401 AC402 AC481
AC482 AD011 AD111 AD112
AD431 AD491 AD492 BB60
CC07 DD31 EE12 EE16

(54)【発明の名称】 パック料

(57)【要約】

【課題】 本発明は、人体に安全な物質の配合割合量を考慮し、有効に利用することにより、人体の皮膚などに良好な効用をもたらし、しかも、かぶれや痒みの発生がなく、あらゆる使用者に使用することができるパック料を提供することを目的とする。殊に、本発明においては、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増すパック料を提供することを目的とする。

【解決手段】 プラセンタエキスと水溶性高分子および/または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなるものであり、殊に前記プラセンタエキスを5%~60%配合してなることを特徴とする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 プラセンタエキスと水溶性高分子および／または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなることを特徴とするパック料。

【請求項2】 コラーゲンおよび／または臍帯抽出液と水溶性高分子および／または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなることを特徴とするパック料。

【請求項3】 前記プラセンタエキスを5%～60%配合してなることを特徴とする請求項1に記載のパック料。

【請求項4】 前記コラーゲンおよび／または臍帯抽出液を5%～60%配合してなることを特徴とする請求項2に記載のパック料。

【請求項5】 前記水溶性高分子および／または消炎剤は、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムであることを特徴とする請求項1～4に記載のパック料。

【請求項6】 前記パック基礎剤は、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンであることを特徴とする請求項1～5に記載のパック料。

【請求項7】 プラセンタエキスと精製水との混合液に、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムを投入し均一攪拌後加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンを加えて、水冷後に変性アルコールを加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してなることを特徴とする請求項1～6に記載のパック料。

【請求項8】 プラセンタエキス30～50%と精製水20～40%との混合液に、ポリビニルアルコール10～20%、パラオキシ安息香酸エステル0.05～0.2%、グリチルリチン酸ジカリウム0.05～0.2%、を投入し均一攪拌後40～60℃まで加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタン0.5～2.0%を加えて、25℃～45℃まで水冷後変性アルコール10%～20%を加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してなることを特徴とする請求項1～7に記載のパック料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、顔や首・肩・腕・脚などの皮膚、頭皮、頭髪、ボディ或いは爪などをパックするパック料に関するもので、殊に成分配合量を充分に考慮し、皮膚への良好作用もたらすパック料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 パック料は皮膚への塗布によって、皮膚へ栄養分を補給すると共に、皮膚の血行促進及び清浄化を行い、肌を滑らかにし、皮膚に張りと緊張をもたらす

ように作用する。これにより、疲れた皮膚の健康回復と美しさを保つことができる。このパック料としては練り状（ゲルタイプ）のクリームタイプ、皮膜を形成するピールオフタイプなどが従来から多用されている。また、従来プラセンタエキスを使用したパック料もみられるが、その成分割合は低く、1%程度である。

【0003】 練り状のパック料はカオリン、タルク、酸化亜鉛などの粉末をオリーブ油、水溶性ラノリン、グリセリンなどと混合して調合されており、ピールオフタイプのパック料はポリビニルアルコール、カルボキシメチルセルロース、PVP（ポリビニルピロリドン）などの被膜形成物質にグリセリン、プロピレングリコールを配合して調整される。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、近年の社会生活の複雑化によってストレスが皮膚へも蓄積されており、従来のパック料では、美白作用・保湿作用・小じわ除去・清浄作用にも限度が見られ、また十分な健康回復を行うことができない不具合を有している。このため、薬効のある化学物質を配合することも行われているが、合成によって製造された化学物質は、使用者によって肌に合わないこともあり、かぶれや痒みの原因となる新たな問題が発生している。

【0005】 本発明はこのような従来の問題点を考慮してなされたものであり、人体に安全な物質の配合量を考慮し、有効に利用することにより、人体の皮膚などに良好な効用をもたらし、しかも、かぶれや痒みの発生がなく、あらゆる使用者に使用することができるパック料を提供することを目的とする。殊に、本発明においては、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増すパック料を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、請求項1に記載の発明は、プラセンタエキスと水溶性高分子および／または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなることを特徴とする。この発明においては、プラセンタエキスを主成分とし、肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用が見られる。

【0007】 また、請求項2に記載の発明は、コラーゲンおよび／または臍帯抽出液と水溶性高分子および／または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなることを特徴とする。この発明においては、前記プラセンタエキスに代えてコラーゲンおよび／または臍帯抽出液を成分とし、肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用が見られる。

【0008】また、請求項3に記載の発明は、前記プラセンタエキスを5%～6%配合してなることを特徴とする。この発明においては、プラセンタエキスの配合量が高く、皮膚への好影響がみられ、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増す作用が見られる。また、プラセンタエキス成分を高配合して、パック料を透明とし、さらにピーリングオフまでの時間を短縮させている。なおまた、プラセンタエキスの配合量が高いことにより、当該パック料の顔などへの塗布に際し、均一にし易くなっている。

【0009】また、請求項4に記載の発明は、前記コラーゲンおよび／または臍帯抽出液を5%～6%配合してなることを特徴とする。この発明においては、前記プラセンタエキスに代えてコラーゲンおよび／または臍帯抽出液を成分とし、その配合量が高く、皮膚への好影響がみられ、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増す作用が見られる。肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用が見られる。

【0010】また、請求項5に記載の発明は、前記水溶性高分子および／または消炎剤は、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムであることを特徴とする。この発明においては、前記プラセンタエキスに加え攪拌する成分をポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムに特定したので、皮膜形成能や消炎作用、さらにメラニン色素形成阻害作用が明確になる。

【0011】また、請求項6に記載の発明は、前記パック基礎剤は、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンであることを特徴とする。この発明においてはパック基礎剤成分をポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンに特定したので、その作用が明確になる。

【0012】また、請求項7に記載の発明は、プラセンタエキスと精製水との混合液に、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムを投入し均一攪拌後加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンを加えて、水冷後に変性アルコールを加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してなることを特徴とする。この発明においては、本パック料製造条件を具体的に特定したので、作用効果が明確なパック料を得ることができる。

【0013】また、請求項8に記載の発明は、プラセンタエキス30～50%と精製水20～40%との混合液に、ポリビニルアルコール10～20%、パラオキシ安息香酸エステル0.05～0.2%、グリチルリチン酸

ジカリウム0.05～0.2%、を投入し均一攪拌後40～60℃まで加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタン0.5～2.0%を加えて、25℃～45℃まで水冷後変性アルコール10%～20%を加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してなることを特徴とする。この発明においては、請求項7に記載の発明に加え、本パック料製造条件・数値を具体的に特定したので、作用効果が明確なパック料を得ることができる。

10 【0014】

【発明の実施の形態】以下に、この発明の好適な実施形態を詳細に説明する。なお、以下に述べる実施形態は、本発明の好適な具体例であるが、技術的に好ましい種々の限定が付されているが、本発明の範囲は、以下の説明において特に本発明を限定する旨の記載がない限り、これらの態様に限られるものではない。

【0015】本発明の要旨は、パック料成分の主成分として、色素沈着防止、メラニン形成阻害作用、シミ・ソバカスの改善作用、皮膚柔軟化作用、保湿効果、小じわ・肌荒れ改善作用、しわの予防、末梢血流障害の改善作用、ニキビ・赤ら顔改善作用、抗炎症作用（アレルギー）などの作用効果が見られる、プラセンタエキスを使用し、殊に当該成分を従来では考慮し難い、極めて多量に使用したものである。

【0016】本発明のパック料に用いられるプラセンタエキスは、牛の胎盤からたんぱく分解酵素処理し、抽出して得られるプラセンタエキス（3）（化粧品種別配合成分規格追補II、平成11年4月発行）を主に使用するが、その他のプラセンタエキスも使用し得るものである。当該プラセンタエキスには、タンパク質、脂肪、炭水化物の3大栄養素はもとより、多種ビタミン、アミノ酸、ミネラル、酵素が多く含まれていることが認められている。従って、これを多くパック剤に混合した場合には、人体の皮膚に極めて好影響を与える。すなわち、当該プラセンタエキスが有する多くの成分をじっくりと肌に届け、疲れた肌に休息を与えて衰えた皮膚機能に効果的に働きかける。日々のダメージ・ストレスで荒れた肌を優しくケアし、透明感のある活き活きとした素肌つくりが可能となる。なお、上記プラセンタエキスに代えて、コラーゲン、臍帯抽出液でも同様の作用が認められるが、以下にはプラセンタエキスを主要成分とする本発明のパック料について詳述する。

【0017】当該プラセンタエキスは、動物由来の成分であり、このため化学的処理のみによって得られる物質とは異なり、生体起源の化学組織を備えており、人体に悪影響のない安全なものである。そして、これをその他のパック基礎剤やパック補助剤との混合処理して得られる本パック料を顔や首・肩・腕・脚などの皮膚、頭皮、頭髪、ボディ或いは爪などに塗布せることにより、これらの身体部位が上述の有効な成分を吸収するため、こ

れらの身体部位を健康にし、肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用を得ることができる。

【0018】これらが配合されるパック剤は、クリーム、ゲルタイプ、ピールオフタイプなど使用目的に応じて適宜選択される。練り状タイプでは、オリーブ油、水溶性ラノリンなどを用いることができるが、これにカオリンやタルク、酸化チタンセリサイトなどの粉体、香料、植物エキスや海藻エキスなどを配合しても良い。又、練り状タイプでは、乳化型、非乳化型のいずれも使用することができる。ピールオフタイプも同様であり、ポリビニルアルコール、ポリビニールピロリドン、カルボキシメチルセルロースなどの被膜形成物質に上述した原料を配合することができる。このような本発明のパック剤の使用部位は顔や首・肩・腕・脚などの皮膚、頭皮、頭髪、ボディ、爪など、自由に選択することができる。

【0019】パックは次第に乾燥するに従って、皮膚に緊張を与える、皮膚の温度が上昇し、血行がよくなる。さらに、皮膚面から蒸発する水分がパック膜の下に溜まり、これが表皮角質層を柔軟にし、皮孔を拡げてパック中の有効成分が皮膚に吸収され易くなる。なおさらに、*

ポリビニルアルコール（低粘度）	
ポリビニルアルコール（高粘度）	
精製水	
パラオキシ安息香酸エステル	
政府所定変性アルコール	
ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタン	
プラセンタエキス	
グリチルリチン酸ジカリウム	

プラセンタエキス40%と精製水29.30%との混合液に、ポリビニルアルコール（低粘度）4.50%およびポリビニルアルコール（高粘度）10.00%混合液、パラオキシ安息香酸エステル0.10%、グリチルリチン酸ジカリウム0.10%を緩やかに投入し、粉体原料のみにて均一攪拌にする。攪拌条件は、P=70 rpm、H=3,000 rpmとした。次いで、加温を開始し、50℃まで加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタン1.0%を加えて、水冷を開始し、35℃まで冷却する。その後、変性アルコール15%を加えて5~10分間静置する。さらに、真空最大吸

*40

※引にて緩やかに脱泡し、脱泡完了後静置する。その結果、透明なパック料を得て、当該パック料を顔に薄く均等に伸ばし塗り、15分後に乾燥を確認し、端から剥がして顔の美白、保湿、小じわ除去、清浄が認められた。なお、ピーリングオフまでの時間を7分~8分までに短縮してみたが、上記と同様な作用効果を得た。

【0023】（試験例1）実施例1のパック料を6人の被検者の顔に塗り、7分後に剥がして今まで使用しているものとの比較を含め、当該パック料の色、香り、硬さ、皮膚刺激、つっぱり感、しっとり感について下記の通りの評価を得た。

当該パック（プラセンタエキス40%）：

評価項目	色	香り	硬さ	皮膚刺激	つっぱり感	しっとり感
評価者A	5	5	5	3	5	5
評価者B	5	4	5	4	5	5
評価者C	4	4	4	4	5	5
評価者D	5	4	5	3	5	5
評価者E	4	5	5	3	5	5
評価者F	5	5	5	4	5	5

従来パック料（プラセンタエキス1%）：

評価項目	色	香り	硬さ	皮膚刺激	つっぱり感	しっとり感
------	---	----	----	------	-------	-------

*パックの吸着作用により皮膚表面の清浄が行われる。

【0020】一般に、パック料の透明化は可溶化現象を利用し、香料・油分など被可溶化物を界面活性剤で可溶化しているが、皮膜形成剤、増粘剤などの高分子が溶解している場合には容易に可溶化が進まず、透明感のあるパック料の製造は困難である。本発明におけるパック料は、プラセンタエキス成分の割合を高くし（5%~60%：通常1%前後）、その結果透明または透明に近いパック料となり、使用後のピーリングオフ時に、いわば（プラセンタ）フィルムを剥がすといった感があり、多くの女性が興味を持って使用し得るものである。

【0021】また、本発明におけるパック料は、プラセンタエキス成分割合を高くし、その結果、上記透明または透明に近いパック料である点に加え、いわば使用後のピーリングオフまでの時間（7分~8分：通常15分前後）が短縮し得るものである。

【実施例】

【0022】以下本発明の実施例を述べる。

（実施例1）以下の処方によってクリームタイプのパック料を調整した。なお、数値は重量%であり、総量が100となるように調整した。

4. 50%
10. 00%
29. 30%
0. 10%
15. 00%
1. 00%
40. 00%
0. 10%

*40

	7			8		
評価者A	4	5	5	3	2	2
評価者B	4	4	5	4	3	3
評価者C	3	4	4	4	3	3
評価者D	4	4	5	3	2	2
評価者E	3	5	5	3	2	1
評価者F	4	5	5	4	3	3

(註) 1) 以上は、5段階評価によるもので、5は大変良い、4は良い、3は普通、2はあまり良くない、1は悪いである。

2) 評価項目のつっぱり感は、5段階評価の数字が高い程、つっぱり感がないことを示している。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のパック料によれば、皮膚などの身体部位の美白をもたらし、また保湿を保ち、小じわ除去、清浄を行うことができる。また、本発明のパック料によれば、その成分や配合量に鑑み、チロシナーゼの抑制力が増してその結果美白作用が高まり、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増すという効果がある。なおさらに、本発明のパック料によれば、その成分や配合量を極めて高度に増したので、パック膜下での乾燥が遅くなり、保湿力が増し、グリチルリチン酸ジカリウムの効能をより引き出すことができ、その結果消炎・抗チロシナーゼ作用効果が増大し、肌に対するパック基材の感触を滑らかにし、パック中の有効成分が皮膚に吸収され易くなる効果がある。

【0025】また請求項1に記載の発明によれば、プラセンタエキスと水溶性高分子および/または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、さらに加冷後脱泡処理してなるので、肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用効果が見られる。

【0026】また、請求項2に記載の発明によれば、コラーゲンおよび/または臍帯抽出液と水溶性高分子および/または消炎剤との混合で得た溶液を、加温後パック基礎剤に混合し、加冷後脱泡処理してなり、前記プラセンタエキスに代えてコラーゲンおよび/または臍帯抽出液を成分としたので、肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用が見られる。

【0027】また、請求項3に記載の発明によれば、前記プラセンタエキスを5%~60%配合して、プラセンタエキスの配合割合量を高くしたので、皮膚への好影響がみられ、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増す作用効果が見られる。また、プラセンタエキス成分を高割合配合したことにより、パック料を透明とすることができます、しかもピーリングオフまでの時間を短縮させることができる効果がある。なおさらに、プラセンタエキスの配合割合量が高いことにより、当該パック料の顔などへの塗布に際

し、均一にし易くなる効果がある。

【0028】また、請求項4に記載の発明によれば、前記コラーゲンおよび/または臍帯抽出液を5%~60%配合してなり、前記プラセンタエキスに代えてコラーゲンおよび/または臍帯抽出液を成分とし、その配合割合量を高くしたので、皮膚への好影響がみられ、チロシナーゼの抑制力が増し（結果として美白作用が高まる）、メラニン色素の排出を促進させ、細胞の呼吸を活発にさせ、皮膚の角質における水分の保護・保湿力が増し、血行の促進力が増す作用が見られる。肌の美白、保湿、小じわ除去、清浄などの作用効果が見られる。

【0029】また、請求項5に記載の発明によれば、前記水溶性高分子および/または消炎剤は、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムであり、前記プラセンタエキスに加え攪拌する成分をこのように特定したので、皮膜形成能や消炎作用、メラニン色素形成阻害作用、抗チロシナーゼなどの作用効果が明確になる。

【0030】また、請求項6に記載の発明によれば、前記パック基礎剤は、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンであり、特定したので、その作用効果が明確になる。

【0031】また、請求項7に記載の発明によれば、プラセンタエキスと精製水との混合液に、ポリビニルアルコール、パラオキシ安息香酸エステル、グリチルリチン酸ジカリウムを投入し均一攪拌後加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンを加えて、水冷後に変性アルコールを加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してなり、本パック料製造条件を具体的に特定したので、作用効果が明確なパック料を得ることができる。

【0032】また、請求項8に記載の発明によれば、プラセンタエキス30~50%と精製水20~40%との混合液に、ポリビニルアルコール10~20%、パラオキシ安息香酸エステル0.05~0.2%、グリチルリチン酸ジカリウム0.05~0.2%を投入し均一攪拌後40~60℃まで加温し、その後ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタン0.5~2.0%を加えて、25℃~45℃まで水冷後変性アルコール10%~20%を加えて静置し、真空最大吸引にて脱泡後静置してな

り、請求項7に記載の発明に加え、本パック料製造条件 * ク料を得ることができる。
・数値を具体的に特定したので、作用効果が明確なパッ*

フロントページの続き

(51) Int.Cl.⁷
A 61 K 7/00
7/48

識別記号

F I
A 61 K 7/00
7/48

「マコード」(参考)
K